

現代文を勉強するにあたって ～毎日読むことが大事！～

～～ 『プログレス現代文 総演習 発展編』のやり方 ～～



〈はじめに〉 ①問題集の表紙裏「論理的文章の読み方」

②P4・5「はじめに、本書の使い方・特長」

③P6・7「抜き出し問題と記述問題の考え方」

*まず**上記をじっくり読み**、問題文への**取り組み方を理解**する。

〈やり方〉

①1題(見開き2ページもしくは3ページ)の解答時間は、20～30分。

②必ず自分の考え、論理の軌跡がわかるように文中に線を引いたり印をつける。

③記述問題は絶対に空欄を作らない。

④語句の意味、漢字等、文中の語で引っかかるものがあつたら、必ず調べる。

～「**スタディポイント(解説書)**」を**読んで**～

⑤答え合わせ

⑥正答→答えの根拠が合っているか。

誤答→「選択肢の判定ポイント」、「記述問題解答へのプロセス」をよく読んで、自分のつまずき、間違いの根拠を把握する。

*上記の①～⑥をくりかえし行い、1週間に2題くらいのペースで進めていく。

文型の皆さんへ **ぶらすα**

*『要約ノート』を問題集の本編をやった翌日に1題ずつ併せて進めていくとよい。

つまり、2日で1題(問題集本編、要約ノート)を、週に2～3題ペースで！！

古典の学習について

国語はできるだけ多くの文章を読むことが大切！！(新聞も読んでますか?)

基本事項(古典文法・漢文句形・古文単語)は夏休みまでに定着させよう！！

～～ 『古文アチーブ』・『漢文アチーブ』・『古典アチーブ』のやり方 ～～

①本文を読んで問題を解く。(20分)

※本文要約は見ない。

②下段の本文要約・語彙問題・文法問題・句形問題をやる。(5～10分)

③答え合わせ

※解説をしっかり読む。

④もう一度本文をしっかり読む。

※わからない古文単語をチェック。(→『核心古文単語351』で確認。)

※文法事項の確認。

たとえば・・・ポイントになっている文法事項を本文の中で確認する。

訳しにくい箇所を品詞分解してみる。

自分でテーマを決めて(助動詞を抜き出す、敬語チェック等)

※漢文句形の確認。

句形問題で取り上げられているもの以外の句形を本文中から探す。

『漢文必携』で必ず確認する。気になったら『漢文必携』を開く。

『漢文必携』を何回も読む。余裕があれば『漢文必携』の練習問題をやる。

つまり、『漢文必携』はすごい！！ボロボロになるほど活用してね。

◎古文が苦手、『アチーブ3』では難しくて解答を読むだけになってしまうという子は『LT古文1』から、本文を読むことを中心にやり直す。終わったら、『アチーブ2』に取りかかる。で、夏休み中には『アチーブ3』に追いついてくださいね。

◎古典文法の復習をしようと思うなら、『LT古文1・文法基本ノート』や『古典文法準拠ノート基礎固め』をやってみましょう。1年生の時にやりきれなかったものです。「えーっ、どこか行っちゃったよ～！」という子は、古典文法の教科書の確認問題をやりましょう。

◎『シス単』だけでなく、『核心古文単語351』も愛用してね。

◎時には『日本文学史ノート』も開いてください。

3年生 日本史の自宅学習について

課題一覧表では書き切れなかったことです。3年生では、授業でも原始時代からの復習をしますから、休校中の期間にできる範囲で復習をしておこう。



1年生の日本史Aで近現代を学習しました。科目としては違いますが、出来事・人名はもちろん日本史Bと共通です。センター試験でも、日本史AとBは共通問題があります。君たちは、あの範囲はかなりしっかりとすでに勉強していることになります！復習してみることも可能です。

- ・教科書、図説…しっかりじっくり、すみずみまで目を通す。
- ・『一問一答』…君たちが 英語のシス単をやるように、計画的に頭の中の語句の整理を。
- ・実力考査は実施しないことになりました。時期をみて、自学自習のために配布できればと思っています。
- ・歴史用語を用語集、辞書、インターネットで調べ、頭の中に落ちつかせる。
「これはどういう出来事なのか」「この人物は何をした人なのか」
「戦（いくさ）がいくつか出てくるけれど、古い順にならべると？」
- ・勉強したことをアウトプットする
 - ① 学校のテスト、模試のやりなおし
 - ② 課題の問題をしっかりやり、正解できなかったところを解説をみてつぶしていく
 - ③ 余裕のある人は、問題集などを買い求めて（解説のくわしいもの）も良いでしょう

※上記の内容を、見ただけで安心しないでやってみること

またみんなと顔を合わせて、歴史の続きを一緒にやっていきたいですね！
それまで、お互い、それぞれにできることをがんばっていきましょう。

